

GLOBAL TIMES VOL.2

SGH マレーシア研修報告

海外実態調査・クアラルンプール大学ワークショップ

11月1日(日)から8日(日)の8日間で、マレーシアでの研修を実施しました。スーパーグローバル(SG)重点分野講座を受講する2年生12名は、この6月から4つのグループに分かれ、能勢の里山保全につながる菊炭生産と、その多くが日本に輸出されるマレーシアのマングローブ炭の生産に焦点をあて、「マレーシア 経済発展と自然破壊」をテーマに課題研究を進めています。

最初にマレーシア西北部にあるペラ州タイピンのマタン・マングローブ保護林を訪問しました。ここでは、国の指導のもとに植林したマングローブを育て隣接する木炭工場で木炭として循環させています。生徒たちは、まず、保護林内にある資料館でレインジャーからマングローブ林の基礎的なことを学び、実際にマングローブの苗を植えました。沼地の中で足を取られながらの植林は、マングローブ林の環境や生態系について直接学ぶ良い体験となりました。午後には、木炭工場に移動し見学をしました。工場経営者の方から、工場内の炭焼き窯の前でマングローブ木炭の製造工程などについての説明を受けました。

首都クアラルンプールでは、タイピンでいっしょに植林活動を行ったマラ日本工業学院を訪問し、まる一日文化交流を行いました。マレー式の結婚式やイスラム教の礼拝を見せてもらい、昼食には伝統的なマレー料理を食べ、民族衣装を着せてもらうなど、マレーシアの文化に触れる充実した交流になりました。

クアラルンプール大学でのワークショップはすべて英語で進められ、初日は、大学の先生から「聞き手を引き付けるプレゼンテーション」についての講義を受けました。午後は、マレーシア経済発展と環境問題の講義を受け、マレーシアが抱える様々な問題を学習することができました。2日目の午前中はグループ別課題研究の発表準備として、現地のクアラルンプール大学の学生や留学生に英語の発音・表現などを個別に指導してもらい、プレゼンテーションのレベルアップにつなげることができました。午後は、いよいよ本番の課題研究発表で、マレーシアの大学生と大学の先生方を前に4つのグループがそれぞれ英語で発表し、質疑にも応答しました。



マレーシア研修を終えて〜生徒たちの感想・気づきなど〜

◆マングローブ林の土はどろどろしていて塩の匂いがした◆イスラム教のお祈りは1日5回で、マラ日本工業学院ではお祈りの時間を知らずチャイムが鳴っていた◆マレーシアでは農業活動による汚染水や都市化により淡水魚が姿を消していると聞いて驚いた◆木炭工場では機械を使わずに全て人力で行っていた◆クアラルンプール大学の学生がプレゼン作成をととても親切に手伝ってくれて感謝◆英語でのコミュニケーションは難しくてくやしい思いをした◆マレーシアの伝統的民族衣装を着用できてとてもよかった◆マレーシアに今年から消費税6%が導入されたのは興味深かった◆マレーシアとは宗教が違い服装や習慣も全く異なるので異文化を理解する上でとてもプラスになった

講座と講師の紹介 (Lecturers)

● 1年 SG 基礎知識講座

第5・8回 ● 清水 利春 さん (オイスカ関西研修センター 所長)

9月7日(月)、「オイスカ研修生と国際交流活動」をテーマに、オイスカの研修生4名に来ていただき、紙飛行機づくりを通して異文化交流を図りました。9月27日(日)の文化祭では、7名のオイスカ研修生とともにフィリピン伝統菓子「カモテQ」作りと販売体験を行いました。



第6・7・9回 ● 今岡 良子 さん (大阪大学言語文化研究科 准教授) 味方 慎一 さん (建築家)



9月17日(木)、今岡先生にはモンゴルの羊毛を使って羊のマスコットづくりの指導、味方さんにはゲルの構造と作製方法を指導していただきました。9月27日(日)文化祭においては、羊のマスコット作製・販売およびゲルの展示を行い、モンゴルの生活や文化について理解を深めました。

第10回 ● 天野 Faith さん (フリー・ザ・チルドレン・ジャパン モチベーションスピーカー)

10月5日(月)、「世界の貧困そして児童労働について」をテーマに、講演とワークショップを通して世界の貧困と児童労働問題について学習しました。世界中で行われている身近な取り組みを知り、「日本にいる高校生の私達」が出来る活動を考えました。



第11回 ● 濱口 香織 さん ((株)マザーハウス 大阪店店長)



11月2日(月)、「フェアトレードの理念と実践」をテーマに、フェアトレードについて学習しました。また、バングラデシュでのカバン製造事業の展開により貧困撲滅に挑む(株)マザーハウスの理念と実践についての話伺いました。「もし、あなたがインドネシアで事業を立ち上げたら」という課題で、ワークショップも行いました。

第12回 ● 久木田 純 さん (関西学院大学 教授、ユニセフ 前事務局長)

11月9日(月)、「世界のために自分でデザインする人生」をテーマに、国連職員として勤務してこられた久木田さんから、国連を通して見たグローバルな話を伺いました。これから世界はどのようにデザインされていくのか、世界のために一人ひとりができることについて考えました。



第13回 ● 三上 順子 さん (能勢農家民宿「みちくさ」 オーナー)



11月12日(木)、「バックパッカーから能勢の古民家へ」をテーマに、世界を放浪したバックパッカーとしての体験を話していただきました。グローバルな視点で日本の文化や価値観を捉え、日本の自然や文化の豊かさ、能勢の素晴らしさについて考える機会となりました。

第14回 ● 中橋 文夫 さん (公立鳥取環境大学 教授)

11月16日(月)、「都市再生のランドスケープ」をテーマに、世界の都市の再生から日本の都市の再生まで、グローバルな視点で「地域再生、町おこし」について講演いただきました。ワークショップでは、経済発展派と自然保護派に分かれて議論を進め、それぞれの立場での意見を考え、そして、解決策について考える機会となりました。



● 2年 SG 基礎知識講座

第5回 ●小辻 昌平 さん (㈱サラヤ CSR推進部課長)



9月2日(水)、「パームオイルとボルネオ環境保全活動」をテーマに、日本の企業CSR実践を通じて、私達と熱帯雨林の大きな関わりについて学びました。(㈱サラヤ)が取り組むボルネオ保全活動について学び、「経済発展と環境保護」についてのグローバルな活動を知ることができました。

第6回 ●中村 綾 さん (箕面市国際交流協会 職員)

9月10日(木)、「生活者の側から見た日本の多文化共生」をテーマに、日本で暮らす外国人の様々な側面について、ご自身が国際結婚されている中での体験等も交えながら話していただきました。身近な体験談を通して、異文化理解の重要性を学ぶ良い機会となりました。



第7回 ●森 大顕 さん (地域再生機構 理事)



9月30日(木)、「地域を元気にするってどんなこと？」をテーマに、薪ボイラーの導入によって過疎化に歯止めをかけたドイツのレッテンバッハ村の先進的な取り組みを紹介していただきました。また、「能勢のために自分でもできそう、やりたいと思うことは？」について話し合い、発展的な地域づくりについて考えました。

第8回 ●畠山 重篤 さん (森は海の恋人 代表)

10月28日(木)、「森は海の恋人」をテーマに、漁師の視点からみた環境問題について話していただきました。森と海の関連性や川の流域や山村の暮らしを整えておくことの重要性を強調され、「森に樹を植えることは人の心に樹を植えること」と結ばれました。



第9回 ●荻野 克彦 さん (箕面市国際交流協会 理事長)

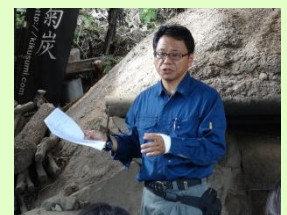


11月18日(水)、「アメリカの人種問題と人権～多民族国家での人権～」をテーマに、アメリカの歴史から始まり、アメリカ駐在中に直面した人種問題、職場で接したアメリカ人のものの考え方やそこから学ぶべきことなどについて話していただきました。多文化共生について考える良い機会となりました。

● 2年 SG 重点分野講座

第15回 ●小谷 義隆 さん (能勢さとやま創造館 代表)

9月12日(土)、2年SG重点分野講座生徒12名が小谷さんの炭焼き工房を訪ね、炭焼き窯の前で講義が行われました。炭の原料になるクヌギ林にも入り、炭焼きと里山保全との関連性も学びました。菊炭にまつわる伝統と文化から自然保護まで、様々な学びがありました。



第16～19・21・22回 課題研究講座 ●乾 陽子 さん (大阪教育大学 化学生態学研究室 准教授)



乾先生の指導のもと、2年SG重点分野講座生徒12名は、グループごとに乾先生のアドバイスを受けながら、課題研究に必要なデータの分析や、議論の進め方を学びました。そして、「マレーシア 経済発展と自然破壊」について課題を決定し、研究テーマを絞り込み、プレゼンテーションの作成を行いました。



大学訪問講座・WS



■大阪教育大学訪問 課題研究！

8月21日(金)、2年SG重点分野講座生徒12名が大阪教育大学を訪問し、乾陽子先生の講座を受講しました。午前中は、課題研究を進める際の重要なポイントについて講義を受けました。昼食は、大学の食堂で大学生に混じってとりました。午後は、課題研究のテーマに沿って、研究テーマの絞り込みを行いました。大学で借りたタブレットパソコンでインターネットを活用し、テーマの内容を深め探究の方向性を探りました。



■奈良東大寺で観光ガイドにチャレンジ！ 大阪国際大学WS(ワークショップ)



8月28日(金)、英語プレゼンテーション力を高めるため、英語で外国人観光客に日本文化を紹介する大阪国際大学生とのワークショップに本校1年生16名が参加しました。午前中、大阪国際大学守口キャンパスにて、東大寺の歴史などについて英語観光ガイドのための講習を受けました。午後は奈良東大寺にて、本校生徒2~3名と留学生・大学生1~2名がグループになり、外国人観光客に声をかけ、英語観光ガイドにチャレンジしました。SGHで培った英語プレゼンテーション力、コミュニケーション力を試す良い機会となりました。

■公立鳥取環境大学英語村訪問 NHK ニュースで報道！



9月28日(月)文化祭代休日、2年SG重点分野講座生徒12名が公立鳥取環境大学を訪問しました。午前は、大学英語村にてフィンランド、ギニア、フィリピン出身の先生方と英語交流活動を行い、午後は中橋文夫教授ゼミにて、本校の卒業生を含めたゼミ生から環境について研究課題発表を聞きました。当日、NHK鳥取放送局の取材があり、英語村での活動について夕方のNHKテレビで報道されました。

能勢高校SGH中間発表会

11月20日(金)、テーマを「THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY!~世界で考え、地域で学べ~」とし、能勢高校SGH中間発表会を能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第13回 研究発表会と併せて本校体育館で開催しました。

前半は、6月以降「マレーシア 経済発展と自然破壊」に焦点をあて、「木炭製造の中で消えゆく森林」を課題研究のテーマとして、主体的に取り組を進めてきた2年生の12名の生徒たちの発表でした。11月1日から8日にかけてのマングローブ林の植林活動、木炭工場でのフィールドワーク、さらにはクアラルンプール大学でのワークショップといったマレーシアでの研修を報告するとともに、クアラルンプール大学で現地の教員や学生の指導のもと飛躍的に向上した英語でのプレゼンテーションを披露しました。

生徒たちの発表を受けて、指導者の大阪教育大学の乾陽子先生をはじめ、運営指導委員の方々、さらには大阪府教育委員会の池嶋伸晃先生から指導講評をいただきました。



後半は、地域再生マネージャーとして活躍されている斉藤俊幸氏による、「地方創生と教育の魅力化~SGHの研究開発を通じて~」をテーマに、記念講演をしていただきました。今後の本校の在り方を検討していく上で、大きな示唆を与えていただきました。